

韓国における子育て事情

少子化

多くの先進国で見られるように、韓国も出生率が低下し続け高齢化社会の問題にも直面している。2003年には日本の1.29よりも低い1.19という少子化を辿り2005年には出生率1.08を記録。2006年には支援策の効果が現れ、6年ぶりに増加に転じ1.13に回復したが、依然として世界最低水準で少子化問題は深刻。そのため、少子化のために幼稚園数が10年前に比べて5分の1に減少した地区も。原因として

- ・ 雇用条件の悪化による経済的不安から女性の経済活動が活発化(韓国の国家統計局 2004年12月の統計による女性の労働力は49.8%で、この30年間継続して上昇しており、特に既婚女性の就業率は1970年の36.9%から2004年の48.7%へと11.8ポイントも上昇。)
- ・ 結婚年齢の上昇による出産忌避現象 があげられる。<http://www.nso.go.kr/>

養育状況

また韓国社会では、近年ライフスタイルに対する価値観が変化し、離婚率が急速に増加。両親が離婚、もしくは死別した場合の子どもの養育が深刻な社会問題となっている。親が忙しくなり生活に追われている現状も、子どもにとっては決して望ましい環境とはいえず、両親以外に子どもの世話をしてくれる人がいない場合はより深刻である。また、子どもたちが幼い頃から友人と遊ぶよりもテレビやビデオ、あるいはコンピュータゲームに興じる時間の方が増加している。

子育て支援制度、とくに乳児の子育て支援制度が不足しているため、仕事を持つ多くの母親は子どもが小さい間は仕事を放棄せざるをえず。女性たちが結婚、出産、育児などの理由で労働市場から撤退している現状を反映している。特に3歳未満の乳幼児保育および24時間の保育に対するニーズは日増しに増加している。

子育てはもはや個別の家族の責任だけではなく、韓国の政策において優先順位の高いものとなっており働く母親達の子育てと仕事の調和に取り組むべく全省庁で広範な支援を保護者に提供している。同時に生涯学習の土台としての幼児教育、社会的投資としての幼児教育にも社会的な注目が。

全省庁の支援策の例

- ・ 不妊治療の医療費支援
- ・ 自然分娩時の本人負担診療費免除
- ・ 未熟児及び先天性代謝異常児への医療支援
- ・ 6歳児未満児童への入院支援
- ・ 子女養育費・教育費・医療費・保険料の所得控除
- ・ 国営公共住宅の供給
- ・ 体外受精の費用支給
- ・ 産休手当・流産手当

今後の方向と課題

- ・ 両性平等な社会の構築
- ・ 男女の家事分担
- ・ 父親の家事育児支援
- ・ フレックス勤務制
- ・ 職場に保育施設運営

- ・ 子どもを養子に迎えた場合の支援
- ・ 育児休暇可能期間の拡大 1歳未満→3歳未満
- ・ 育児期労働時間の短縮
- ・ 出産・育児女性労働者雇用企業への採用奨励金支給
- ・ 低所得者層への支援 等

<http://allabout.co.jp/children/infanteducation/closeup/CU20070617A/>

こんな記事も・

http://85879908.at.webry.info/200901/article_1.html

5歳以下の子どもがいる家庭、保育施設無料に…来年7月から

2009年7月から月収278万ウォン(約17万8000円)以下の4人家族の場合、5歳以下の乳・幼児は無料で保育施設を利用できるようになる(3人家族の場合は約16万円以下)。このようになれば、5歳以下の乳・乳児がいる家庭の約半分がこの恩恵を受けることに。

月収が規定された金額よりも多いが、398万ウォン(約25万5000円)に満たない家庭には2010年から第2子に限り支援(保育料の50%)を受けられる。

その後も次上位階層が恩恵を受ける無料保育施設の利用資格を2009年には所得下位50%に拡大する計画。これを受け、無料保育施設を利用する子どもは39万人から61万人に。

韓国政府は次上位階層以下の0～1歳児にはひと月10万ウォン(約6400円)の養育費を支援することにした。これは0～5歳児の44%が保育施設を利用していない点を考慮したもの。

<http://japanesejoins.com/article/article.php?aid=108494&servcode=400§code=400>

新しい幼児教育法の特徴

- ・ 満5歳児の無償保育
- ・ 幼稚園の設立や人件費を国や地方自治体が補助
- ・ 教育機関や保育の設備環境や条件を整備し質の高い幼児教育環境を目指す。
- ・ 都市部の幼稚園で延長保育を行う全日制のクラスを増設
- ・ 幼稚園と子どもの家と同じ施設内で運営される など

韓国の幼児教育施設

韓国の幼稚園や保育所のシステムは基本的には日本と類似している。

月謝は夫の収入によって援助金がもらえ、こういう面では韓国は日本より待遇がいいという声も。

一般的に韓国では11月1日に幼稚園・保育園が一斉に園児募集を始める。

※ ちなみに韓国では数え年で言うので新年になると一つ年をとる。したがって幼稚園児の中心年齢には4歳～7歳。

幼稚園(ユチオン、日本の幼稚園とだいたい同じ)

- ・ 国公立と私立が。
- ・ 満3歳児～満5歳児までの3学年。(年齢混合クラスを設けている園も)
- ・ 教育人的資源部が管轄
- ・ 過去は主として半日保育(1日3時間)が行われていたが最近では

時間延長クラス(5 時間以上 8 時間未満)や終日クラス(1 日 8 時間以上)が急速に増加。

- ・ 庭があってもあまり外で遊ぶことはなく部屋の中で静かに勉強、お絵かき、歌を歌ったりすることが多い。
- ・ 子供たちと遊びながらもうまく教育もしていくというスタイル。
- ・ それぞれの年齢に合わせた遊び、しつけ、図画、工作の時間と英語の時間とある。(図画、工作と英語に関しては、専門の先生が教えてくれる)
- ・ 水泳は満 4 歳児以上は必須科目。

～1 日のスケジュール例～

午前 9 時 登校

10 時 間食の時間(タッポッキ)

12 時 昼食

(麦入りごはん、わかめスープ、豆腐を焼いてソースをからめたもの、ナムル、キムチ)

歯磨き

1 時半 帰宅 (午前中の部は 9 時から 1 時半、1 日の部は 6 時まで)

～行事関係(ある幼稚園の例)～

お誕生日会

運動会

プール遊び

人形劇鑑賞会

遠足

芋掘り

キムチ作り

おもちゃ作り

など。

< 韓国の幼保一元化 >

伝統的な幼稚園が全日制を取り入れて、限りなく保育所のケアリングに近づくプログラムを導入。次々に増設される私立の保育所はすでに過当競争になってきており、生き残るために目玉保育やオリジナリティが要求されてきている。

(個人経営の小さな幼稚園も)

- ・ 日本で言う塾に近いよう
- ・ 街の中の小さな建物の 2 階などを使ったとてもこぢんまりとした雰囲気。
- ・ 韓国の年齢の 6、7 歳児対象
- ・ ハングルを習ってからピアノと簡単な算数(足し算と引き算)を習っていく。
- ・ 間食、昼食付き。
- ・ 行事関係は少な目(お誕生日会、遠足程度。)
- ・ 月謝はかなり安い
- ・ 幼稚園教育課程

改訂された第六次幼稚園教育での課程の基本目標は、全人的成長のための基礎教育として乳児の日常生活に必要な基本能力と態度を育てることに重点が置かれており教育課程を、健康的な生活、表現生活、言語生活、探求生活の4領域に区分。

保育所

- ・ 0～6 歳児対象
(だが満3歳～5歳児が主な対象のため0歳～満2歳の乳幼児保育施設が絶対的に不足)
- ・ 終日制(1日12時間以上)で運営
- ・ 女性家族部が管轄
- ・ 保育プログラム
保育施設における保育は、保護、教育、栄養、健康、安全、父母に対するサービス、地域社会との交流等のような基本原則を軸にした保育計画が立てられている。

保育施設にはいくつかの種類が。

オリジップ어린이집 (子どもの家という意味。日本の保育園に一番近い)

- ・ 料金(だいたい給食費込)
入園金 8万ウォン(1万円)
午前班(9時～2時) 22万ウォン(約2万5千円)/1ヶ月
一日班(9時～7時) 30万ウォン(約3万5千円)/1ヶ月
- ・ 国公立、私立とあり企業内保育所も。
- ・ 韓国の保育園または幼稚園では、リュックサック(各園ごとに配布される)で通うのが普通。
- ・ お昼ごはんは給食ですが、食器は持参。
(写真のようなプレートにおかずを載せて食べます。洗うのが面倒ですが。)



놀리반(遊び部屋という意味。家庭保育施設)

- ・ 主に年少、年中の子供たち(満三歳以下)が対象。
- ・ 幼稚園や塾よりも楽しく遊ぶのが目的
- ・ 料金の例(一ヶ月)

満2歳までが35万ウォン(約4万2千円)

満3歳までが28万ウォン(約3万5千円)

上記のように子供が小さければ小さいほど高い。また預ける時間の長さによって変わる。

以上が大きく分けた**3つの施設**。その他、教育・保育施設には含まれないが、

学院ハゴン(塾のこと)というものも。

- ・ みな幼稚園や小学校が終わった後の習い事に力を入れている。
- ・ 音楽、美術、外国語などの専門教育が中心。

就園率

0~2 歳児 —全体の 16.2%が保育施設に。

3~5 歳児 幼稚園—29.6%

保育施設—34.0%

- ・ 合計 63.6%が幼稚園か保育施設に通っていることに。
- ・ 3~5 歳児の就園率が低いのは、幼稚園や保育施設以外に各種ハゴン(学院)や宗教施設など私設の機関に通うケースが多いため。
- ・ 4 歳までは保育施設に通う幼児が多く、5 歳になると幼稚園に通う幼児の比率が高い。

私立の幼稚園が幼稚園児の 77.1%を占め、また民間保育施設(法人などを除外)は保育施設利用幼児の 88.1%が利用しているが、国の支援がほとんどないために、とくに保育施設の場合、質の管理が不足しているのが実情である。

コーナー保育

日本と同じ役割を持つという幼稚園や保育園だが幼児教育先進国とも言われる韓国。コーナー保育に関して日本と一番違う点と言える。各教室や園全体をコーナー的な発想で区切って子供たちに好きなコーナーに行き遊ばせる。科学、言語、ままごと遊び、音律活動、コンピュータコーナーなどおよそ6~10に区切られ、コーナー毎にいろんな遊びの教材(数の遊びや、パズル、ブロック遊びなど科学的な教材や文字の教材、ままごと道具や郵便局に行き切手を買って、スタンプを押してもらい、すぐろくのような社会領域を学ばせる目的の教材など。日本でも手作りの布の絵本やままごとのセットはあるが韓国の教材の種類多さは日本の比ではない。)が置いてある。単なる遊び目的ではなく知識を蓄え発想を刺激するためのものが多い。

コーナー保育は、もともとアメリカの幼児教育理論の影響で、日本にも韓国にも入ったが日本ではあまりうまく機能していない。韓国では1980年以前は日本と同じような教育を行っていたが、1982年制定の幼稚園教育課程から、コーナー保育を取り入れてきた。日本では、登園してきた子供たちをまず1時間くらい自由に遊ばせる自由遊びの時間があるが、韓国では“自由選択遊び”として運営。先生がその日のテーマに合わせていろんな教材をコーナーに置き、そこへ子供たちが入ってきて教材を選んで遊ぶ。先生が主体となって遊び場を形成することから、詰め込み教育と捉えられることもあるよう。日本に比べ、なぜ韓国ではここまで忠実に実践し定着させたかには、幼稚園や保育園の施設環境も影響している。

日本の幼稚園は、外で遊べるオープンスペースが広く、プレイルームもたくさんあるので教室を細かくコーナーで区切らなくても、子供たちが揉めずに、自分の居場所を見つけて遊べる。一方、韓国は日本と比べてグラウンドも施設も狭いので、狭いスペースで遊ばせて、子供たちをそのままにしておく揉めるばかり。だから韓国では環境的な面でのコーナー保育が特に役立ったのだ。

http://72.14.235.132/search?q=cache:299DjMyL9DYJ:benesse.jp/berd/center/open/report/youjiseikatsu_enq_eastasia/2006/pdf/youjiseikatsu_enq_eastasia_05.pdf+%E3%83%8F%E3%82%B4%E3%83%B3%E3%80%80%E5%B0%8F%E3%80%80%E5%B9%BC%E7%A8%9A%E5%9C%92&hl=ja&ct=clnk&cd=4&gl=jp

カリキュラムの面でも、韓国では科学的な探究領域を幼児教育課程が採用している点で優れている

- ・ コンピュータコーナーが設けられている幼稚園も多く、子供たちはコンピュータで自分の遊び道具を作ったり、お話をインターネットで調べること。
- ・ 英才教育や、子供の脳の活動を活発化させるための研究も盛ん。
教育人的資源部(日本の文部科学省に相当)の正式な内容として中・高校では英才教育が推進されているので、幼児教育の現場にも影響があるとのこと。

最近、韓国では、イタリアのレージョエミアのようなプロジェクト学習を自国の環境に合わせて実践したり、韓国の伝承遊び、あるいは自然親和的な活動を多く取り入れたりといった新しい試みが。これらが今後どのようなかたちで韓国らしさを生み出すのか気になるところ。

習い事

教育熱の高まるソウルにおいて、ほとんどの母親は幼稚園での教育に満足していないとのこと。そのため満3歳ぐらいから塾に通わせるのが当たり前で人気のあるものは、

ピアノ
ミスル(図画、工作)
バイオリン
テコンドー

英語の塾もかなり人気が出てきている習い事の一つ(英語に力を入れている幼稚園と聞きついでに通っている幼稚園をすぐ辞めさせて別の幼稚園に通わせる母親もたくさんいるほど)。習い事をかけもちしている子供も多い(そのせいか公園で遊んでいるのはヨチヨチ歩きの子ぐらいである)。また、80%以上はみなハングルを習うための教材(韓国ではシステムの学習教材も大変豊富)で勉強し早い子では満3歳でハングルが読めるという話も。

学力と教育

OECDの15歳児学習到達度に関する国際比較の3年後経年調査によると日本の急降下に比べて躍進ぶりが目立つ。

(その直後に発表された国際教育到達度評価学会(IEA)の国際数学・理科教育調査(TIMSS2003)でも同様の結果。)

問題解決能力…韓国が第1位(日本4位)
数学的リテラシー…第2位(日本1位→6位)
読解力…2位(日本8位→14位)

韓国の受験生の猛烈な勉強ぶりや家計費の中での教育費増大は国際的にも有名な話。近年は、少子化に伴って、その熱心な親子での受験への取り組みが年々低年齢化してきている。

<http://www.aiiku.or.jp/aiiku/jigyo/contents/tabunka/tb0502.htm>

<http://www.kokuyo.co.jp/hiramekilab/report/vol1/korea01.html>

<http://www.k-plaza.com/life/marriage8.html>

<http://kankokufuntou.seesaa.net/article/28602019.html>

★ もちろんインターナショナルスクールもある。

- ・ 9月入園
- ・ ミッションスクールの学校(キンダーガーデン)
- ・ 99%韓国人のインターなど色々なインターがある。
- ・ 費用は1年間でおよそ300万円。
- ・ お勉強とお受験がメインのインターも。

http://www.mypress.jp/v2_writers/elklee7/story/?story_id=1673145